

きょう りゅう

多収米の産地化で持続性の高い農業を目指して!!

強粒 エクスプレス

KYO-RYU EXPRESS

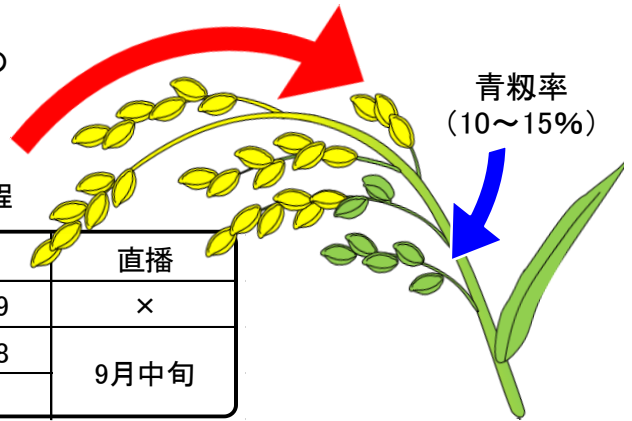


8月中旬が多雨・日照不足となり、ハエチゼンの刈取作業に遅れが見られました。契約品種(つくばSD1号)の刈り取りについては、9月3日からカントリーの荷受けが始まります。今後も降雨など不安定な天候が続く見込みです。適期の刈取・適切な乾燥調整を行い、収量と品質向上に努めましょう。

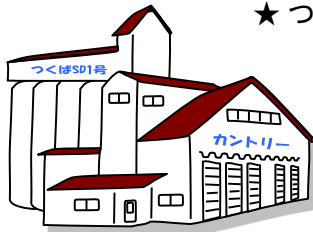
1. つくばSD1号の刈取

★ 注意!! つくばSD1号は、葉色が落ちにくいので、『穂軸の熟れ』や『葉の黄化』で収穫期を判断すると刈遅れになる。籾の状態(青籾率)を見て刈取を判断しましょう。

★先端から黄化が進む



★ つくばSD1号カントリー稼働日程



施設名	移植	直播
東部	9/7 ~ 9	×
中央	9/3 ~ 8	9月中旬
西部	×	

2. つくばSD1号の乾燥調整

多収米の品質(品位)傾向

多収米は、着粒・籾数が多いことで、青未熟・乳白粒などが増加し品質が低下する傾向です。下記の多収米部会基準を厳守し適正な乾燥調整を行いましょう。

①品質・調整基準(多収米部会)

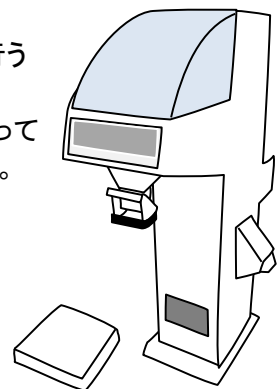
A) 品質(品位): 2等級以上
*整粒: 60%以上
*未熟粒(乳白粒): 20%以下

B) 仕上げ水分: 14.5~15.5%
*水分高(15.6~16.0%): ▲200円/俵を徴収
*規格外水分: 16.1%以上

C) ライスグレーダー網目: 1.9mm
*整粒向上と未熟粒の混入防止

②整粒を高める調整作業

- 未熟米防止
ライスグレーダーの網目1.9mmの使用と適正流量を厳守(整粒は1.85mmより、3~5%アップ)
- 籾混入防止
籾すりを丁寧に行う
- 肌ズレ米防止
穀温が常温に戻ってから籾すりをする。



3. しきゆたか栽培管理

水管理 : 登熟期から刈取りまで

- 田面が乾く前に入水し、自然落水を繰り返す(入水間隔は3~4日程度)
- 一般品種より穂が大きく長い登熟期間が必要なため、長期間に亘って間断通水を継続して良好な登熟を促す。

カメムシ防除 : 傾穂期(出穂後7~10日後)に実施

- ダントツ粉剤DL 3~4kg/10a

適期刈取で収量アップを目指しましょう。今回の『Kyo-Ryu.Express』は中央支店が担当しました。